

HP700

を聴く

新製品リリースを聞いて、スタッフの誰もが「早く聴いてみたい」と心待ちにしていました。ソースはLINN KLIMAX DS/K、プリアンプに今回のOCTAVE HP700、そして同メーカーのステレオパワーアンプ RE290を、早速接続してみます。スピーカーは、お使いの方の多いB&Wと、駆動力が必要なMAGICO、2機種を用意しました。



MAGICO S5



B&W 802DIAMOND

MAGICOの特徴でもあるアルミ合金の強固なエンクロージャーで、その上密閉型。このようなスピーカーを鳴らすには、ワット数の高い押し出しの強さを誇るものではなく、本当の意味での力強さを備えたトルクのある「パワーアンプ」が必要…。それが今までの考えでした。しかし今回、プリアンプであるHP700に接続すると、スピーカーの駆動にゆとりが出て低域の深みが増し、高域の解像度が格段にあがり音数が増えたのです。大音量にしても全く崩れを見せません。それはRE290からモノラルパワーアンプのMRE220に変えたかというほどの変化でした。サンサーンス交響曲第3番のオルガンの低域が、文字通り深く沈み込み、地を這うように迫ってくる再生はこのスピーカーの強靱なキャビネットのなせる業とは思もの、他のアンプでは成しえなかったことでした。しかしHP700はいつも簡単に再生してしまうのです。一緒にご聴されたお客様が「この3番は今まで色々なシステムで聴いているし、それぞれ結構なマンションが買えるくらいのシステムでも聴いたことがあるけど、こんな音は聴いたことがない。『すごい』に尽きるね!!」と仰られたのが印象的です。

B&Wの特徴は何と言ってもダイヤモンドツイーター。クリアな高域と定位感は数あるスピーカーの中でも群を抜いています。低域をしっかり出し切らないと、物足りなさを感じてしまうスピーカーではないでしょうか。これもHP700を接続したことで一変！802Diamondの低域と高域のバランスがもの見事に調ってしまいます。これほどまでピタッとバランスが取れることはそうありません。当たり前の話ですが、ステレオ再生では、左右チャンネルのスピーカーからそれぞれ違う音が発せられます。その音がうまく折り重なれば、オーケストラやJAZZのビックバンドなど編成の大きいものは楽器の位置が手に取るように表現され、また、リアルな再生が重要視されるボーカル音源では、まるでアーティストが目の前で歌っているかのように等身大で現れます。このような表現が特に素晴らしいのです。HP700が802Diamondの魅力を最大限引き出し、音の強弱、余韻、再生の全てがコントロールされているかのようでした。

試聴を終えて

オーディオシステムにおけるプリアンプは、元々「頭脳」と例えられるほどに重要な存在ですが、HP700の制動力をして改めてその重要性が色濃く浮き彫りになりました。プレーヤーからの情報を受けてパワーアンプへ送るHP700は、素晴らしい頭脳を持ち主。その明晰さは、例えばAという超優秀なDACを通した時に常にAの雰囲気を感じるといふ単純なものではなく、まるで生きて判断しているかのように後段のシステムを制動し、ゆとりを持って鳴らすことのできるプリアンプなのです。

追記

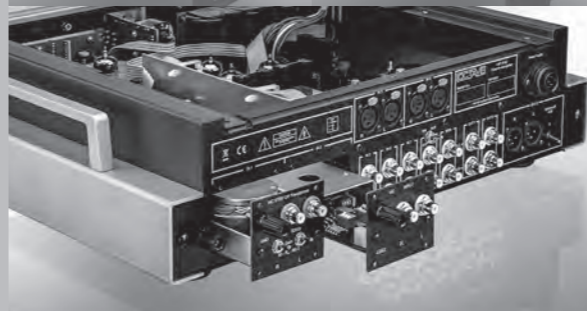
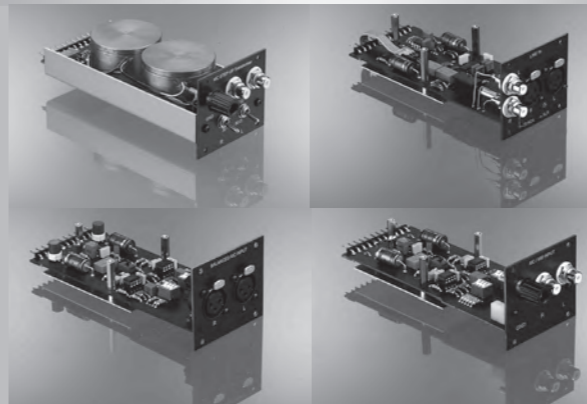
OCTAVEの創業者で最高責任者でもあるアンドレアス・ホフマン。彼の製品に対する情熱とオーディオに対峙する姿勢は、私たちにとても勉強になります。そんな、アンドレアス氏にお目にかかった時の歓談の中で、印象に残っている話があります。「ドイツでは、南部と北部でコンサートホールの低域の響かせ方に違いがある。北部に比べて南部のホールの低域の響きは非常に深く伸び伸びとしているのが特徴」なのだそう。ドイツ南部のカールスバットで製造されるOCTAVE製品の低域の質感に通じると感じた話でした。

OCTAVE待望の新製品 真空管プリアンプHP700を聴く！

OCTAVEと聞くと、パワーアンプやプリメインアンプのイメージがありますが、1986年創業時に発表した最初の製品はプリアンプHP500でした。派手な存在ではないながらコントロール能力の高さ、音楽性には、多くの機器を使ってきたオーディオ愛好家や、玄人肌の音楽愛好家には定評があり長きにわたり愛されてきた存在でした。惜しまれつつ生産完了したHP500の上級機として登場したHP700。今回はその魅力に迫ります。

HP700の魅力

HP700は5年間の開発期間を要し、満を持して発売された真空管プリアンプです。これまでに培ったノウハウを活かし新開発のオーディオ回路と別筐体に複合的にシールド格納されたパワートランス及び圧倒的に低ノイズ化された最新設計のインテグレートドパワーフィルター電源部で構成されています。その電源ユニットはOCTAVE独自のソフトスタート技術との相乗効果で真空管の長寿命化を約束しています。そしてHP700で一番の注目点は、ラインステージに搭載された、3ステップのインピーダンス調整と3ステップの出力ゲイン調整が可能なこと。これにより接続するスピーカーの効率やパワーアンプのゲインとのマッチングの最適化ができるのです。特にラインレベルのインピーダンス調整は一般的なプリアンプには見られない大変珍しい機能で、スピーカーケーブルの種類及び長さ、パワーアンプによって変動する出力段の感度を調整します。それによりオーディオシステム本来の能力を引き出すことを可能にしています。



✓まだまだありますHP700の優れた機能

HP700は他にもユニークなオプションを多数採用しています。リスナーの音楽趣向、合わせるシステムや使用環境に応じた幅広い機能も搭載が可能です。

✓モジュールタイプの増設入力ポートを採用

オプションのトランスMCアナログモジュールやライトランスモジュール、ラインXLR入力など8種類のモジュールが用意され、使用環境に応じた入力の増設が可能です。

✓47ステップのアッテネーターボリューム

チャンネル偏差を極小レベルまで抑えた低歪みの自社開発ボリュームにアップグレード可能です。

✓トーンコントロールユニット、バランスコントロール、出力セレクタ

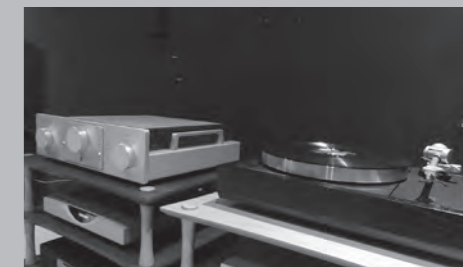
真空管ベースの新開発トーンコントロールと1dBステップのバランスコントロールにより部屋の特性やシステム、楽曲に合わせたお好みのイコライジングが可能です。さらに、出力セレクタスイッチにより幾つかのゾーンに音声出力を切り替えることが可能です。

PHONO イコライザーの魅力

HP700には新設計のフォノイコライザーが搭載されています。システム全体の低歪み化とRIAA段の高S/N化を実現し、オプションの入力モジュールと組み合わせあらゆるフォノカートリッジに適合したものの。早速LINN LP12SEを接続してNOJIMA PLAYS LISZTを聴いてみました。初発の感想は「ものすごく静か」の一言につきま。

S/Nの良さが素晴らしいのです。更にスピーカー間に展開するサウンドステージには、奥行き感がものすごく出て尚且つ透明感があります。当店で力を入れているLINN DSでのハイレゾ再生と聴き比べても、出だしのピアノのアタック感が生々しく、KLIMAX DSをもってしてもきつくなりがちな高域は、HP700のアナログ再生では全くそれを感じさせません。改めてアナログ音源(レコード)の音域の広さや情報量の多さが実感されます。圧倒的な静けさ

の中で、演奏者とその背景まで手に取るように浮かび上がり、ただただ音楽に没頭できる。これこそが音楽と向き合っている瞬間だと思えました。



SOUNDCREATE

〒104-0061 東京都中央区銀座5-10-6 第一銀座ビル 7F
URL: www.soundcreate.co.jp | Tel. 0120-62-8166

SOUNDCREATE Legato

〒104-0061 東京都中央区銀座2-4-17
URL: www.soundcreate.co.jp/legato/ | Tel. 03-5524-5823

営業時間: 12:00~19:00 定休日: 毎週火曜日/第2, 第3月曜日(除く祝日)



取り扱いブランド

LINN/OCTAVE/MAGICO/B&W/JBL/Sonus faber/PIEGA/Brodmann/Albedo/Davone/McIntosh/ELAC/KEF/NuForce/TRIGON/QUADRASPIRE/ヴァンテージ各種...etc